

- 01 院長挨拶
さいたま市「もの忘れ検診」の
実施について
- 02 診療科紹介（小児科・放射線科）
2016年7月着任の医師紹介
- 04 第1回 さいたま北部医療センター
「地域医療交流会」のお知らせ

きたまち



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization : JCHO
さいたま北部医療センター
Saitama Northern Medical Center

発行日：平成28年8月22日



Saitama Northern Medical Center

～冒頭挨拶～



院長 黒田 豊

今回の当院の広報誌「きたまち」では7月から新たに赴任して頂いた先生方を紹介しております。

まずは常勤医として、7月から小児科に笠神崇平先生が着任されました。小児科は昨年より常勤医2名になり、入院受入にも支障を来す状態が続いておりました。小児科中村部長の所属医局である帝京大学小児科三牧教授にこの窮状をお伝えしたところ、真摯にご検討頂き、7月から笠神先生を派遣して頂きました。これで小児科は3名体制となり入院医療の充実が期待できる所です。小児科クリニックの先生方からの入院治療依頼にも十分応えることが出来る体制になったと思います。対象患者さんがおられましたら是非ご紹介下さい。また当院の小児科は、さいたま市立学校児童生徒3次検診および生活習慣病児童健診の精密診療機関であり、生活習慣病外来も開設しており、医師増員によりこのような外来医療機能も更に発展することと思われま

す。次に非常勤医ですが、7月から神経内科の豊田千純子先生に週1回神経内科外来を開設して頂くことになりました。毎週火曜日です。豊田先生は東京慈恵会医科大学神経内科学のご所属で、パーキンソン病と認知症を専門にしておられます。8月からは、さいたま市「もの忘れ検診」が開始され、当院も検診実施医療機関に登録されております。MRIを保有する当院にて、専門医である豊田先生の外来が開設されることにより診断から治療に結びつく診療の流れが出来ました。さいたま市の「もの忘れ検診」は限られた年齢しか対象となっておりますが、認知症が疑われる患者さんがおられましたら年齢に関係なくご紹介頂ければ幸いです。以上、新任の先生方の紹介を申し上げます。

今年4月以降、病診連携や病病連携、介護施設との連携を強化する目的で地域医療連携室の充実を図っておりますが、まだまだ足りない点があろうかと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さいたま市「もの忘れ検診」の実施について 地域医療連携室より

既に平成28年8月1日から医師会を中心として実施している、さいたま市「もの忘れ検診」事業の内容は、大きく分けて以下の2つから構成されています。

- ① 検診実施医療機関による認知症簡易スクリーニング検査の実施。
- ② 検診で機能の「低下の疑いあり」と判定された方の、「認知症診断医」による鑑別診断。

当院では、MRI等を使用した画像検査を行い、認知症の鑑別診断をサポートいたします。

7月から新任の神経内科の豊田千純子先生は「認知症診断医」として登録する予定です（本年9月頃）。MRI等の画像情報を含めた診断が必要な場合は、画像検査や神経内科（毎週火曜日）の受診をご予約いただけます。

- 「もの忘れ」検診に関しましては内科外来 … 代表048-663-1671
 - 「認知症診断」に関しましては地域医療連携室 … 直通048-653-7858
- まで、どうぞご連絡いただきますようお願い申し上げます。



さいたま北部
医療センターの
診療科紹介

小児科

新病院へ向けて、人員の充実・拡大を図る計画

小児科 部長 中村 明夫



小児科 部長
中村 明夫 先生

平素より患者さまをご紹介いただきありがとうございます。今年はおかげさまで外来および入院患者数は昨年よりも増加し、諸先生方からのご配慮に感謝しております。

本年7月より、笠神崇平医師が常勤医として当院に赴任し、小児科は3名体制となりました。笠神先生は小児科学会専門医、新生児専門医資格を取得しており、特に小児循環器疾患の診断治療経験が豊富であります。従いまして心臓疾患の早期発見・経過観察が当科でも可能になり、心雑音で精査が必要な場合は、当科を紹介先の一つとしてご検討いただければと思います。

当院小児科は、帝京大学小児科の関連病院として2010年から現在の診療体制が始まりました。その診療組織は外来・入院・学校検診・研究会の4つの柱で構成され、以下の図のように歩んできています。将来は新専門医制度の研修プログラムや医学生の教育に対応できるよう人員・組織の充実・拡大をはかる計画です。

平成31年度には新病院移転となり、当院と地域住民とのつながりは医療を通じてより一層深まるものと思います。今後この地域が子育てしやすい素晴らしい街になるよう、また将来世代の健全な心身を育てるよう当院小児科は以下の①～③を目標にしています。

JCHOさいたま北部医療センター小児科のあゆみ (2010-2013は旧社会保険病院)							
西暦	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016 7月
常勤医師数	1	2	2	3	2	2	3
外来診療	[Bar chart showing growth]						
病棟診療	[Bar chart showing growth]						
地域学校検診 (腎・糖・生活習慣病)	[Bar chart showing growth]						
小児医療研究会 (地域防災・医療講習会・情報発信)	[Bar chart showing growth]						

これからの当院小児科の医療
(子育てしやすい環境を整える)

- ① 外来・入院診療(こどもの病気への対応)
- ② 予防接種・乳幼児健診
(こどもの健康管理)
- ③ 保育・こころ・在宅・教育活動
(地域社会の安定と育児支援)



以上、当科の特色と将来像について御紹介しました。これらの診療や活動を通じて地域医療機関との連携を今以上に進めていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

2016年7月
着任の

医師紹介



- かさ がみ たか ひら
- ① 笠神 崇平
 - ② 小児科
 - ③ 1977年9月19日
 - ④ 帝京大学
 - ⑤ 特にありません

帝京大学小児科から参りました笠神崇平と申します。卒後14年目になります。専門は小児循環器、新生児でこの10年間は小児集中治療に携わってきました。プライマリケアは10年ぶりということもあり、皆さまに大変ご迷惑お掛けすることが予想されますが、どうかご容赦ください。一日でも早くさいたま市民の小児医療に貢献できるよう邁進していきますので、先生方のご指導のほどお願い申し上げます。



放射線科

「北区」出身です。着任2年がたちました。

放射線科 医長 加藤 さくら



放射線科 医長
加藤 さくら 先生

早いもので、私がさいたま北部医療センターへ着任してから、丸2年が経過しました。放射線技師さん達と撮影内容の見直しと改善を進め、看護師さんとも業務フローの改善や変更を重ね、落ち着いて仕事ができる環境となりました。院内のみならず、院外からのご紹介を含め、撮影件数も増加、安定してきました。放射線科という科の特徴でもありますが、院内外の先生方からのご依頼がないと成し得なかったことであり、地域にも浸透してきたかな、と、非常に嬉しく思っております。私は北区出身であり、実家近所のスーパーで、この前、さくらちゃんのところに行ってMRIしてきたのよ、と同級生のお母様に声をかけていただいたり、ちょっと恥ずかしい感じもしながら、地元の病院で働いていることを誇らしくも思う瞬間です。先生方にも、地域の方にも身近な放射線科医であれば、と思いながら日々の診療にあたっております。

また、この2年の間に、アルツハイマー病など認知症の画像診断ツールのひとつである、VSRADというMRIでの画像解析ソフトが3テスラMRI機への応用版が公開され、当院でも運用できるようになりました。認知症は高齢化による患者数の増加と、治療方法の開発とともに、在宅医療において、先生方が診断、治療、介護などにおいて、もっとも困ることの多い疾患群ではないかと思えます。

実際、VSRADの運用が始まってから、当院において依頼件数が増えており、関心の高まりを実感します。単純なアルツハイマー病であれば、VSRADの有用性は高いものの、レビー小体型認知症については判断の難しい場合があり、玉虫色の報告書になってしまいます。歯がゆい思いをしながら、報告書を長々と書いております。こんな報告書しか返せなくて、役に立つのかな？ 臨床症状も変動が大きいので、先生方も判断に迷ってしまうのではないだろうか？ と考えてしまうこともあります。もし、神経内科の先生と一緒に診れたらなあ、と常々思っております。

そんな時、7月より週に1日、火曜日のみですが、東京慈恵医科大学神経内科より豊田千純子先生が当院内科へ来てくださる事となりました。赴任初日に図々しくも挨拶に向かい、お話をさせていただきました。在宅診療の経験もおありで、パーキンソン病をはじめとした変性疾患や認知症の新しい診断法の話など、興味深く聞かせていただきました。毎週火曜日、午前から午後の予約診療にはなりますが、MRIのみでは不十分な部分を神経内科の先生の診断とあわせて、地域の先生方の診療に役立てていただけたら、幸に思えます。ぜひ、地域連携室を通してご相談ください。

また、頭部の他では、整形外科領域のご依頼も多くいただきます。整形外科領域では超音波診断への注目が高く、私も勉強しなくては、と思っております。熱心に超音波検査をされている先生からの紹介状を読ませていただきますと、身体所見に加え、エコー所見からこの疾患を疑っている、と詳細に書いてくださっており、感銘を受けます。整形外科に限らず、撮影方法の決定や読影に際し、非常に役に立つ情報を熱心に書いてくださると、診断の助けになります。診療のお忙しい合間に書いていただく紹介状ではありますが、その一言の記載がなければ、この撮影はしなかったなあ、この一文は書かなかったなあ、ということも多く経験します。1回の検査で効率よく診断へたどり着くため、先生方からいただく紹介状は本当に役に立つことが多いと実感します。ぜひ、先生の患者さんのことを、私に教えてください。紹介状と画像、報告書を介したやり取りではありますが、少しでもお役に立てれば、と思いながらモニターを見つめております。もし、私の言葉が足らず、ここが聞きたかったのに、ということがありましたら、ぜひ、お電話でもご相談ください。近所の放射線科医は、いつでもお待ちしております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

① 氏名 ② 診療科 ③ 生年月日 ④ 出身大学 ⑤ 趣味など



- とよだ ちずこ
- ① 豊田 千純子
 - ② 神経内科
 - ③ 1970年8月1日
 - ④ 東京慈恵会医科大学
 - ⑤ 筋トレ、スノーボード

毎週火曜日に神経内科外来を担当させて頂くことになりました。当院には頭部CTはもちろん、頭部MRI・MRA、電気生理検査など神経内科の診断プロセスに必要な検査設備が多数揃っています。私の専門領域は神経変性疾患で、母校の大学病院ではパーキンソン関連疾患の方々を多数拝見させて頂いております。まだこちらに勤務して間もないですが、少しずつパーキンソン病や認知症の方の診療のご依頼を頂き、専門的な知識の還元に努めています。以前、武蔵浦和で勤務したことがありますが、埼玉県は足腰が丈夫なご老人が大勢いらっしゃる印象です。2030年問題に何とか対処できるように、皆様の健康寿命伸長のお役に少しでも立てればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



放射線科

3T(テスラ)高磁場MRIをご活用ください。

放射線科 技師長 堀江 好一



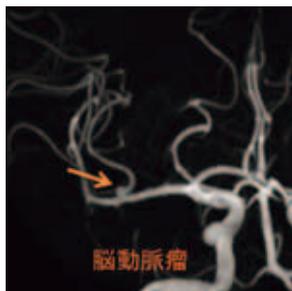
放射線科 技師長
堀江 好一

平素は多くのCT・MRI検査等のご依頼をいただきありがとうございます。

放射線科ではMRI・CT・マンモグラフィ等の検査を承っておりますが、当院のモダリティの中でも3テスラの磁場強度を持つMRI (Siemens Verio)は、最もご利用いただきたい装置です。3テスラのMRIは脳脊髄の撮像において特に威力を発揮します。鮮明なMRA画像でのより小さな動脈瘤の発見。磁化率強調画像 (SWI)を用いての微小脳出血の描出。さらに拡散強調画像 (DWI)も磁場強度の低い装置と比べアドバンテージがあります。

また近年、社会的関心の高まっている認知症の早期発見にもMRIが役立ちます。VSRADという解析ツールを用いることで認知症の早期発見が高確率で可能となり、現在のバージョンではアルツハイマー型認知症 (AD)とレビー小体型認知症 (DLB)の鑑別も可能とされています。諸先生方の診療の一助としてご利用いただきますようご案内申し上げます。

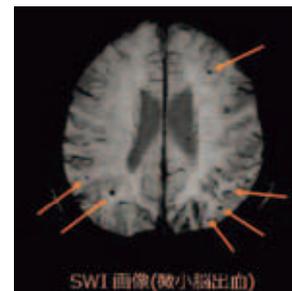
■当院のMRI画像の一例



脳動脈瘤 (中大脳動脈)



MRA (脳動脈)



SWI (微小脳出血)

第1回 | さいたま北部医療センター 「地域医療交流会」のお知らせ

地域の皆様との更なる交流を深めるために、JCHOさいたま北部医療センター 第1回地域医療交流会を下記の通り開催いたします。

場所は、新築移転予定地の傍にある、ステラタウン前の「大宮アートグレイスウエディングシャトー」(写真)を予定しております。詳細につきましては、改めましてご案内を発送いたします。

記

日 時 平成28年10月13日(木曜日)18:30頃から(予定)
場 所 アートグレイスウエディングシャトー大宮璃宮(予定)
内 容 当院の各診療科の案内と常勤医師の紹介をさせていただきます。また、現在、計画中の新病院に関する情報もできる限りお伝えする予定です。
ご案内 近日中に、改めてご案内いたします。

Saitama Northern Medical Center



会場となるアートグレイスウエディングシャトー大宮璃宮